

重症集中ケア研究会たより

第7号 発行 2003年11月

11月も半ばを過ぎ、冬の足跡が近づいてきました。研究会の皆様はいかがお過ごしでしょうか？今回は、7月と9月に開催されました定例会報告と、「皆さんの認定看護師活動を教えて下さい」と題して、会員のインタビューを行いました。ご一読ください。

定例会レポート

第2回定例会（7月）は、「意識障害患者のためのリハビリテーション」をテーマに、大阪市立大学医学部附属病院リハビリテーション部・金尾顕郎先生による講演が開催されました。意識障害患者へのリハビリテーションの処方とその留意点、リスク管理、廃用症候群へのアプローチ方法の講義により、文献や研究に裏付けられた根拠と具体的な対策を学ぶことができました。後半の実習では、ベッドサイドケアに生かせる、キネティクスを応用した体位変換、トランスファー技術を教えていただきました。（参加者－NTT 関東病院・米山多美子）

第3回定例会（9月）は、「アメリカでの心臓リハビリテーションとその領域におけるCNS活動の実際」をテーマに、国立看護大学校・岡田 彩子先生による公演が開催されました。

急性期の心臓リハビリテーションは、安全なリハビリテーションを進行する、可能な限り早期より開始・進行する、退院後の生活に向けての準備を目指すことであり、実際の心臓リハビリテーション時の進行の適否について説明がありました。そして心臓リハビリテーション看護師、CNSとしての役割について説明があり、私たち認定看護師としてはどのような役割があるのか、文献と照らし合わせながら実際にはどのような役割・位置に自分が到達しているのか、自己を振り返る機会となりました。



岡田 彩子先生講演中の様子

HP担当より

HP 立ち上げ1周年

重症集中ケア研究会のHPが完成して1年が過ぎました。これまでのアクセス数は、のべ11000を超えています。「重症集中ケア認定看護師って何？」という素朴な疑問やケアに関する質問など、多くのメールが非会員からも寄せられています。

今年は定例会の申し込み、メーリングリスト、TOPページのBBSがスタートしました。

これからも、よりよいHPへと進化を続けるために、皆様からのご意見、ご要望などなんでもお寄せください。なお、新しく会員になられた方や、メール全然届かない方は、Eメールをお寄せください。ウィルスが多いため一時的にサーバがダウンし、送ったはずのメールが届かないことが多いようです。URLは <http://www.icu-cen.com/> Eメールは info@icu-cen.com です。

皆さんの認定看護師活動を教えて下さ~い！

今回は、自治医科大学大宮医療センターの**丸田恵美さん**です。

(2001年8月1日に重症集中ケア認定看護師に認定)

Q：丸田さんの所属している部署、病棟での役割を紹介してください。

A：集中治療部です。スタッフとして働いています。

Q：認定看護師になってからの実際の活動について教えてください。

A：集中治療部内での活動が主です。集中治療部のレベルアップを目指して、実践・指導を行っています。院内では、最近になってやっと勉強会などのニーズがあるようで、計画をしているところです。院内コンサルテーションもやっと病院側からの許可がおりて、さあこれから！といった感じです。

Q：これらの活動でうまくいったことや、成功したことはどのようなことですか？

その秘訣は何かありますか？

A：最初はひとりで始めたことが、最近では興味を示してくれるスタッフが増えてきています。廃用性症候群を予防するための早期離床や、呼吸理学療法など、看護チーム全体が、患者様中心の看護を心がけようという動きになっていっていると実感しています。こんなふうになってきたのは最近になってのことで、途中であきらめずに、地道にコツコツと正しいことを伝えていくのが大事なのだと思っています。

Q：これらの活動でうまくいかなかったことや、困っていることはどのようなことですか？

A：やはり、集中治療部内だけではなく、院内でどのように活動していくかが現時点での悩みです。当院では、まだまだ認定看護師に対する認知度が低いのです。そんな中、認定看護師という存在をどのようにアピールしていくのか、自分自身どこまでできるのか試行錯誤しています。

Q：所属している病院で認定看護師は何人くらいいますか？それぞれどのような連携をしていますか？

A：今はわたし一人です。現在、教育を受けているスタッフがいますので、来年には2人でやっていくことになると思います。

Q：今後の活動について教えてください。

A：今まで通り、地道にコツコツ活動していこうと思います。そして、院内での活動も少しずつ広げていけるよう努力していこうと思います。

丸田さん！皆さんの活動のヒントにつながるようなお話をありがとうございました。



編集後記

広報係りでは、今後より興味のもてる内容にしていきたいと考えております。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

広報担当：中嶋美和子　　松木恵里